



# 第一地区住民自治協議会 住民自治協議会だより

第一地区は 茂菅・新諏訪町・西長野・桜枝町・狐池・花咲町・往生地・横沢町・西町上・西町南・上西之門町・西之門町・栄町・立町・若松町・旭町・長門町の17町で、令和3年9月現在世帯数2,811戸、人口5,561名（市統計）です。

発行：第一地区住民自治協議会

## シリーズ「第一地区の歴史を訪ねて」②

今回は、かつて第一地区を襲った大災害「湯福川の氾濫」を特集します。過去の災害を知ることは防災の第1歩とされています。ご一読ください。

今年も全国各地で、記録的な豪雨による自然大災害が発生し、「日本中のどの地域でも自然大災害が起こる」と警告されています。

「第一地区は大丈夫なの?」「災害はあったの?」と聞かれました。そこで、過去の災害例やハザードマップ等について紹介します。

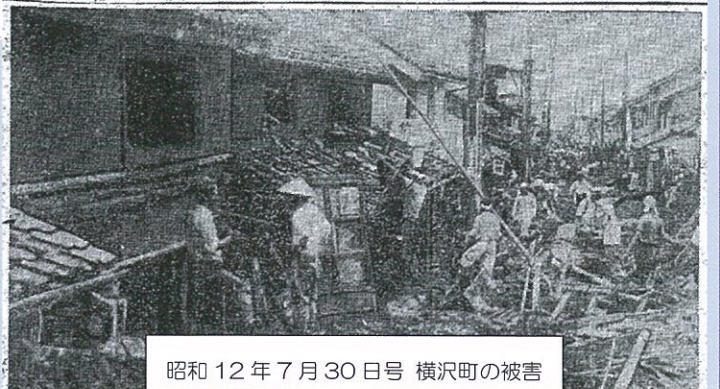
### 「湯福川大氾濫」



昭和12年7月29日号 湯福川氾濫

昭和12年7月30日号 横沢町の被害

昭和12年7月28日午後、長野市内に雷鳴・稲光混じりの物凄い豪雨が襲来した。長野気象台の雨量計は午後3時から夜10時までに86.1mm、その中で1時間に55.7mmという驚異的な降水量を記録した。この猛烈な豪雨に湯福川は堪え切れず、堰



昭和12年7月30日号 横沢町の被害



昭和 12 年 7 月 30 日号 吹き出し

を切り、逆捲く濁流は、箱清水・横沢町・東之門・西之門・桜枝町・西町・若松町・旭町・西長野町等の一帯を呑みこみ、更に鐘鑄堰(川)と合流して諏訪町・権堂町あたりまでが氾濫原と化した。その夜は電燈が消え、濁流のうねりは家を押し倒し、あらん限りの暴威の恐怖を与え続けた。死者・不明者 4 人、5 戸流出、全壊 19 戸、湯福神社社殿半壊、床上浸水 153 戸、床下浸水 790 戸等の被害となった。この猛然と襲来した豪雨は生命線である水道送水管を芋井の荒安地区

の土砂崩れにより破壊し、往生地配水地区では断水状態が続いた。

翌朝の道路にも土砂の泥水が流れ続け、壊滅状態の家は、家具をそっくり持ち去られ、2 階にまで泥が飛び散り、岩や材木が飛び込んでいた。そして再び、午後 2 時から 3 時間雨が降り、65 mm の雨量となった。連日の水魔で、全市的には約 4 千戸にまで浸水の被害が発生した。さらに 30 日も、3 日連続で夕立のような豪雨に襲われ続けた。

この大災害では、連日泥まみれになった家族と共に、地区の消防団・近隣の青年団が泥を運び出している姿があった。また、湯福神社の境内は濁流が流れ、流木が山積している隅で、エプロン姿の婦人会の方が甲斐甲斐しく働き、遭難の家族を慰め、手伝いの人々を労っていた。

## 「湯福川分水シシ沢工事」

昭和 12 年 7 月 28～29 日の記録的な大降雨で湯福川が氾濫し、被災された市街地を守るための防災工事が昭和 29 年より始まった。

以前の獅子沢は往生地→狐池→西長野の信大校内→現裁判所(旧刑務所)→鐘鑄堰(川)に流れ込んでいた。改修工事は、湯福川に集まる大量の豪雨を長野西高校の地点で分水し、その分水を獅子沢に合流させる工事であった。合流すると獅子沢の水量が急増するので、獅子沢の改修や流路を変える大掛かりな事業となった。合流点から狐池・西長野繁田医院を経て信大教育学部グランド北東の区間は暗渠といわれている道路の下に水路を建設した。湯福川の水量も加わり、増水する獅子沢を鐘鑄堰(川)へ流れ込むと下流の洪水問題もあり、裾花川へ合流させる必要があった。そこで信大グランド→加茂神社脇→長野商業高校の北→裾花川に合流させる新たな流路づくりの工事が続いた。信大グランドから裾花川へ合流するには、傾斜地に逆行した流路となり、次第に深く掘り下げて建設されていった。



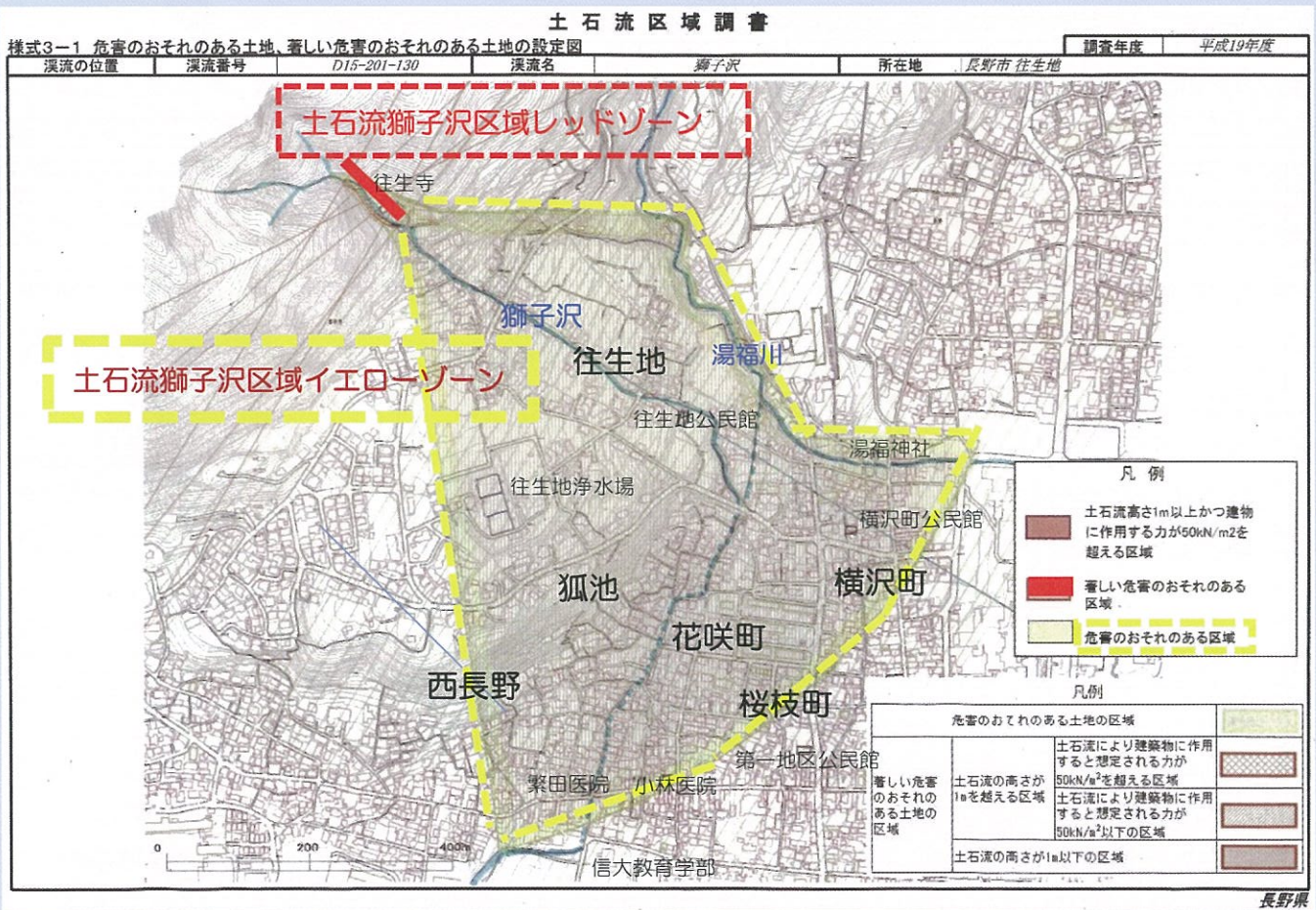
この大きな防災工事は昭和 38 年に完成し、信大教育学部グランドから裾花川までの 800m の区間はシシ沢川と呼ばれ、昭和 40 年 4 月 1 日に一級河川に昇格された。

## 「ハザードマップ 土石流獅子沢」

平成 28 年度改訂版「長野市ハザードマップ」が全戸配布され、「土石流獅子沢」が指定されていた。普段は少ない水量の往生地の獅子沢であるが、被害が広範囲に及び土石流であることに驚いた。ハザードマップより長野建設事務所作成の「土石流区域調書」の方が獅子沢の位置や建物等について示されていた。

土石流獅子沢は超強力な「高さ 1 m の土石流」は示されていないが、「著しい危害のおそれ」の土石流は上流の往生寺周辺に指定されている。大部分は「危害の恐れのある地域」で、往生地・狐池・横沢町・花咲町・西長野の広範囲になり、600 戸以上の住居が含まれている。土石流の方向は獅子沢の流路と同じ方向の急斜面と指摘され、土石流のエネルギーは非常に大きくなる。

第一地区には、獅子沢より集水地域の広い「土石流境沢」もあり、急斜面の「土石流茂菅」も指定されている。また、急斜面が茂菅から新諏訪・往生地・西長野・狐池に連続しており、大雨が連続する度に「がけ崩れ」「地すべり」「裾花川の洪水」等の自然災害が心配となっている。



## 「気候変動と自然災害」

ハザードマップの土石流獅子沢は「100年に一度、24時間に154mmの豪雨があった場合の想定」とされている。

最近「地球温暖化」「気候変動」「記録的な豪雨」「100年に一度でなく数10年に一度」の言葉が聞かれ、全国各地では自然大災害が発生している。

長野市でも今年も長雨が続き、記録的な2日間(48時間)の雨量であった。

「48時間降水量」の多い順位（長野気象台観測 1976年以降）

①155.5 mm 2021年8月 ②141 mm 2004年10月 ③140 mm 2006年7月 ④140 mm 1982年9月 ⑤137.5 mm 2019年10月  
「1時間降水量」の多い順位（長野気象台観測）  
①63 mm 1933年8月 ②59 mm 1970年8月 ③57.5 mm 2017年8月 ④55.7 mm 1937年8月 ⑤55 mm 1970年6月 ⑥ 52.5 mm 2020年7月

〔24時間降水量〕の多い順位（長野気象台観測）

①132 mm 2019年10月12日 ②124.5 mm 2004年10月2日 ③114.5 mm 1982年9月12日 ④112.9 mm 1950年8月5日 ⑤112 mm 1983年9月28日 ⑥110.5 mm 2013年8月23日

## 「避難ルートの確認や防災ダム建設を」

「たぶん起こらない」と安易な思い込みは大変危険です。最近では気候変動で「強雨の集中豪雨」「局地的大雨」「線上降水帯」等が増加して、大きな災害が各地で発生しています。私達の第一地区でも自然災害が指摘されています。

そこで、ハザードマップを見つめたり研修会に参加したりして、我が家や地域の状態をよく理解し、命や暮らしを守る「早め早めの避難用品の準備」「何回も何回も避難場所やルートや連絡方法」等を確認しましょう。

そして、甚大な被害が想定されている「土石流獅子沢」や「土石流境沢」「土石流茂菅沢」の防災ダムは、未だ建設されていません。防災ダムは不可欠でありますので、早期の建設を行政にお願いしていきましょう。

住自協会長 小池公雄



### 城山公民館防災講座 「気象災害から身を守ろう」

講師：気象予報士 内田 寛氏

9月9日（木）に開催された防災講演会の内容から紹介します。

- 近年雨の降り方が変わった⇒毎年のように災害が起きている
- 気象予測精度が向上しても気象災害は防げない⇒しかし災害の発生を予測できる ●予測発表から災害発生までに時間がある⇒避難準備の時間与える ●警戒レベル3⇒高齢者等避難 警戒レベル4⇒避難指示全員避難 警戒レベル5⇒直ちに命の安全確保 ●土砂災害は自分が危ないと思ったら行政の避難情報を待たずに避難⇒自分の命は自分で守る⇒無駄足でもよい、空振りを恐れず、できるだけ早期の避難 ●避難弱者に声をかけを⇒日頃の近所付き合いが大事 ●湯福川、大峰沢は短時間の大雨に注意⇒土に水が染み込み沢になったら危険 ●人的・物的被害を減らすためには、避難すること 逃げること!!



**コロナ禍であっても災害は待ってくれません。** 第一地区住民自治協議会「安全防災部会」では、今年度の防災訓練として『大雨による土砂災害の危険』からの自主避難と避難所自主開設訓練を予定しています。但し、新型コロナウイルス感染拡大予防の為、訓練参加者は各町の防災担当者のみを予定しています。

災害時の避難所開設を実体験し、有事に備えようと考えています。訓練の様子は次回以降の「住自協だより」にてご報告します。

事務局 木村 明（防災士）

#### ◆第一地区住民自治協議会事務局

〒380-0833 長野市大字鶴賀権堂町 2201 番地 20 権堂イーストプラザ ND1 階

電話：262-1217（FAX 兼）

E-mail：[daii@clock.ocn.ne.jp](mailto:daii@clock.ocn.ne.jp)